

ワークショップ(映画の歴史 ~映画におけるコメディ・シーン~)

1. 映画史

年代	映画史	主な出来事
～1889	1839年 パリにてダゲールが写真術の発明	1760年 英国産業革命開始 1854年 日本海国 1868年 明治維新 1872年 横浜にガス灯 1874年 京橋にガス灯 1879年 エジソンが白熱電球を公開 1889年 パリ万国博覧会
	リュミエール以前にも絵を動かして楽しむ技術(おどろき盤など)があった	
1890	1894年 エジソンがキネトスコープ発明 1895年 リュミエール兄弟がシネマトグラフを発明 1896年 映画に伴奏を付けるスタイルが定着	1894-95年 日清戦争
	リュミエールは1895年末にパリのレストランの地下で世界初の有料上映会を行った	
1900	1905年 アメリカのピッツバーグに初の映画館誕生 入場料が5セント(5セント硬貨=ニッケル)だったため、それにちなんで映画館は俗称ニッケルオデオンとなった	1900年 パリ万国博覧会 ※19世紀最後の年に、過去をふり返り新しい世纪を展望するために開かれたもの。ここでも映画の上映が行われた。
	シネマトグラフ発明後、フランス、イタリアが中心となり映画産業を反映させた。フランスにおいて映画は1900年代に輸出品目の第一位となつた 1900年代の映画は2分以内の作品が殆ど	
1910	1910年 スター性の確立(フランス) D·W·グリフィス本格的な劇映画を量産(アメリカ) 1912年 グリフィスの許よりマック·セネットが独立、キーストン社の製作責任者として活躍(アメリカ) 1912年 初の映画雑誌「Photoplay」発行(アメリカ) 1914年 初のアニメ映画「恐竜ガーティ」製作(アメリカ) 1914年 ジョバンニ・パストローネ「カビリア」発表(イタリア)	1914年 第一次世界大戦勃発 1917年 ロシア革命、世界初の社会主义国家ソビエト連邦が建国 1918年 第一次世界大戦終結
	第一次世界大戦を機に盛況だった仏・伊の映画史は硬直し、アメリカ主導の映画史が始まる	
1920	1920年 谷崎潤一郎「アマチュア俱楽部」製作(日本) 1922年 2色テクニカラーの発明(アメリカ) 1923年 ヴェネチア国際映画祭始まる 1924年 アヴァン・ギャルド(前衛映画)の流行(フランス) 1927年 初の長編トーキー映画「ジャズ・シンガー」(アメリカ) 1927年 アカデミー賞始まる(アメリカ)	1920年 アメリカで禁酒法制定、ギャングの暗躍 1923年 関東大震災 1929年 世界恐慌がアメリカより始まる
	セネットは映画の娛樂性を民衆に浸透させたが、トーキーの発明により、花形だった道化師たちがトーキーの世界に対応できず、次々と消えていった 初期トーキー映画の特徴は、ひたすら音を出すことに重点が置かれた点である 撮影も映写も1秒24フレームの速さというのがこの年代に確立、アメリカ製の娯楽映画が国際基準となる	
1930	1933年 初の長編3色テクニカラー映画「虚栄の市」 1937年 国営映画スタジオ チネチッタ建設(イタリア) 1939年 「風と共に去りぬ」	1939年 第二次世界大戦勃発
	この年代に製作された作品の9割はトーキーとなる トーキー設備が世界中の映画館に普及する テレビジョンの試験放送開始	
1940	1941年 オーソン・ウェルズ「市民ケーン」 1942年 「カサブランカ」初公開 1943年 ゴールデングローブ賞始まる 1946年 カンヌ国際映画祭始まる	1941年 太平洋戦争 1945年 世界戦争の終結、東西冷戦始まる 1948年 ガンジー暗殺 1949年 西側諸国NATO結成 ソビエト連邦主導によるフルシャワ条約機構結成
	アメリカが世界の娯楽映画の中心となる一方、低予算の芸術映画(ネオ・リアリスモ)がイタリアで生まれる	

年代	映画史	主な出来事
1950	1950年 ブルーリボン賞始まる 1953年「聖衣」で初のシネマスコープ採用 1954年「ゴジラ」(日本) 1955年「オクラホマ」で初の70mmフィルム使用 1959年「ベン・ハー」公開、アカデミー賞最多の11部門獲得 フランスでヌーヴェル・ヴァーグ運動が起こる(ゴダール、トリュフォーなど) TVの普及のために集客の落ちた映画界は、内容よりも大画面で観客を呼び戻そうと考える	1954年 ビキニ環礁で水爆実験
1960	1960年 ヒッチcock「サイコ」 1961年「ウエスト・サイド・ストーリー」 1965年「サウンド・オブ・ミュージック」 1969年 ニューシネマ「真夜中のカウボーイ」 ドイツ・アメリカでニューシネマのムーブメントが始まる 映画を見る年齢を規制するレイティングシステムも導入(例:R指定) 映画会社は事業を多様化し、様々なエンターテイメントの事業を開始する	1963年 ケネディ大統領暗殺 1969年 アポロ11号、人類発の月面着陸
1970	1977年「スター・ウォーズ」 1977年「サタディ・ナイト・フィーバー」 1977年 日本アカデミー賞始まる 1978年「未知との遭遇」 コンピュータの急速な進歩に伴い、スクリーンの特殊効果が発達	1970年 大阪万国博覧会
1980	1982年「E.T.」 1989年「バットマン」 1989年「ニュー・シネマ・パラダイス」(イタリア) 小さな所でしか上映できなかった独立系制作会社の映画がケーブルTVの普及により、次第に増加していく	1989年 ベルリンの壁崩壊
~2005	1990年「ゴースト/ニューヨークの幻」 1997年「タイタニック」 1997年 ヴェネチア国際映画祭で北野武の「HANA-BI」が金獅子賞を獲得 2001年「ハリー・ポッターと賢者の石」「ロード・オブ・ザ・リング」 2004年「誰も知らない」で柳楽優弥が第57回カンヌ国際映画祭にて史上最年少の最優秀男優賞を受賞 2005年「オペラ座の怪人」 超大作映画の増加 シネコンの普及 ネット配信ムービー	1990年 湾岸戦争 1991年 ソビエト連邦社会主義共和国が解体 2001年 世界貿易 2002年 日韓共催ワールドカップ

2. 初期の映画のスタイル

【映写機】

・キネトスコープ

パラパラマンガの覗き穴版で一人ずつしか観ることができなかった。撮影はキネトグラフを用い、周囲を黒く塗った屋根の無い小屋の中で太陽光を利用して行われた。キネトスコープの機能は再生のみ。投影機ではない。

・シネマトグラフ

フィルムを使用し、壁に映し出す形式のために一度の大勢の人が見ることができた。撮影は何処でも可能であった。シネマトグラフは撮影と映写の兼用機。

【フィルム】

初期のフィルムの素材はニトロセルロース(ダイナマイトの原料)を使用していたため、高温では簡単に燃え出す危険があった。

【上映スタイル】

映画専門の劇場が無かった19世紀末、映画は演芸場のプログラムの一つとして‘上演’されるか、カーニバルや軍隊の駐屯地での巡回公演が主であった。演芸場に所属のミュージシャンが余興で映写中に演奏していたことから、リュミエールがシネマトグラフを発表して1年経たず、サイレント映画は伴奏付き興行として定着した。

【映画製作の先駆者たち】

リュミエールもエジソンも映写機能の開発に重点を置いており、写真の延長にある動画記録が主目的であった。彼らは映画製作自体にはそれ程関心が無かった。そのため、この応用に関心を寄せた新参によって映画は発展することとなる。

3. 映画を育てた国々

(1) フランス:映画の発祥の地であり、映画が娯楽として確立した地である。

・シャルル・パテ(1863-1957)

実業家でプロデューサーとして数々のコメディを生み出した人物。リュミエール兄弟が催した最初の上映会に参加した35名のうちの1人で、シネマトグラフの購入を断られた事から独自に映画製作への執念を燃やし、多くのヒット作を発表した。

・ジョルジュ・メリエス(1861-1938)

メリエスはパテ同様、リュミエール兄弟が催した最初の上映会に参加した1人であり、シネマトグラフの販売を断られている。そのためイギリス製の類型機を独自の工夫で改良し、撮影における様々な手法を発見した。私財を投じて破産するまで映画を作りつづけた。映画における特殊効果の生みの親。

(2) イタリア:フランス源流のコメディを世界中に普及させる一方で、歴史大作を数多く作り出し、映画を芸術の域に高めた

(3) アメリカ:第一次世界大戦を機にフランスとイタリアの知恵を受け継ぎ、撮影技術の向上と大衆への訴求力をより強め、映画を一大産業に昇華させた

・D·W·グリフィス(1875-1948) 監督

映画の父、今日的な映像演出を生み出し、スクリーンのシェイクスピアなどと呼ばれている。

・マック・セネット(1880-1960) 監督／プロデューサー

ドタバタ喜劇の中興の祖。民衆を楽しませることをモットーに映画を製作。多くの映画スターを輩出した。

・ハル・ローチ(1892-1992) プロデューサー

セネット流ドタバタ喜劇に対し、道化を演じるのではない市井の人々が見る等身大のコメディアンを起用して大成功を収める。晩年セネットが生涯のライバルと言った人物。「チビッ子ギャング」など多くの人気番組を製作。

・チャーリー・チャップリン(1889-1977) 監督／役者

ちょび髭とダボダボのズボンがトレードマーク。セネットの許で一躍スターとなる。今もなお、圧倒的な人気を誇り、様々な業種にも大きな影響を与えている。

・バスター・キートン(1895-1966) 監督／役者

映画では笑う演技がほとんど無く、無表情を通したため、Stone Face(石の顔)とも呼ばれた。並外れた運動神経を生かしてのアクションと柔軟な発想によるギャグの王様。

・ハロルド・ロイド(1893-1971) 役者

ハル・ローチの創案により大学生や青年実業家の役柄で国民的大スターとなったコメディアン。道化を演じないことで人気を得た。

・メーベル・ノーマンド(1892頃-1930) 役者

映画界初のコメディエンヌ。愛らしいキャラクターで国際的な評価を得た。生年月日不詳。

・ロスコー・アーバックル(1887-1933) 監督／役者

丸々とした体格に信じられないほどの運動神経を持ち、様々な妙技と天才的なギャグ考案で一躍世界のトップスターとなったが、殺人事件の嫌疑によって凋落した不遇のコメディアン。現在でもファンが多い。往時はチャップリンやキートンをも助演にしていた喜劇の王様。

参考作品一覧

【発明と試行錯誤】

「L'arrivée du train en gare de la Ciotat」 1895年

撮影 ルイ・リュミエール

リュミエール社作品＝フランス

「Police magnétique」 1902年（日本未公開）

製作 シャルル・パテ 監督 ジョルジュ・アト

パテ・フレール社作品＝フランス

「Les déportistes」 1905年（日本未公開）

製作 シャルル・パテ 監督 ジャン・デュラン

パテ・フレール社作品＝フランス

「月世界旅行」 Le voyage dans la Lune 1902年

製作・監督・主演 ジョルジュ・メリエス

スター・フィルム社＝フランス

【スター誕生】

「ライオンと征服将軍」 Seven years' bad luck 1922年

脚本・監督・主演 マックス・ランデール

ロバート・スコール／ユナイテッド・アーティスツ社作品＝アメリカ

「Polidor e il giapponese」 1917年（日本未公開）

監督・主演 ポリドール・フェルティナン・ギヨーム（フェルティナンド・ギラウメ）

ティベル社作品＝イタリア

「Robinet boxeur」 1913年（日本未公開）

監督・主演 ロビネ・マルセリ・ファーブル（ロビネット・マルセロ・ファブレ）

アンブロージオ社作品＝イタリア

【アメリカ映画の時代】

「チャップリンの衝突」 The fatal mallet 1914 年
監督・主演 チャーリー・チャップリン、マック・セネット、メーベル・ノーマンド
キーストン社作品=アメリカ
「デブの料理番」 The waiter's ball 1916 年
監督 ロスコー・アーバックル、フェリス・ハートマン
出演 ロスコー・アーバックル、アル・セント・ジョン
トライアングル・キーストン社作品=アメリカ
「ガッスルの潜水艇」 The submarine pirate 1917 年
監督 チャールズ・アベリー、シドニー・チャップリン
出演 シド・チャップリン
トライアングル・キーストン社作品=アメリカ

【応用と発展】

「Wondering willies」 1926 年 (日本未公開)
監督 テル・ロード
出演 ビリー・ビーバン、アンディ・クライド
マック・セネット・コメディズ/ハテ・エクスチェンジ社作品=アメリカ
「The halfback of Notre Dame」 1924 年 (日本未公開)
監督 テル・ロード
出演 ハリー・グリボン、ジャック・クーパー
マック・セネット・コメディズ/ハテ・エクスチェンジ社作品=アメリカ
「The lizzies of the field」 1924 年 (日本未公開)
監督不明
主演 ビリー・ビーバン、アンディ・クライド
マック・セネット・コメディズ/ハテ・エクスチェンジ社作品=アメリカ
「海底王キートン」 The Navigator 1924 年
監督 バスター・キートン、ドナルド・クリスピ
出演 バスター・キートン、キャサリン・マクガイア
バスター・キートン・プロダクションズ/メトロ・ゴールドウィン社作品=アメリカ
「福の神」 For heaven's sake 1926 年
監督 サム・ティラー
主演 ハロルド・ロイド、ジョビナ・ラルストン
ザハロルド・ロイド・コポレーション/ハテ・エクスチェンジ社作品=アメリカ
「The bellhop」 1921 年 (日本未公開)
監督 ラリー・シモン、ノーマン・タウログ
出演 ラリー・シモン、オリバー・ハーディ
ヴァイタグラフ社作品=アメリカ
「臨時雇いの娘」 The extra girl 1923 年
監督 F・リチャード・ジョーンズ 原作 マック・セネット
出演 メーベル・ノーマンド、ラルフ・グレイブス
マック・セネット・ハテ・エクスチェンジ社/アーサー・S・ケイン
アソシエイティッド・エキシビターズ社作品=アメリカ
「専売特許」 It's a gift 1923 年
監督 チャールズ・パロット
出演 スナップ・ポラード、マリー・モスキーニ
ハル・ローチ・スタジオ/ハテ・エクスチェンジ社作品=アメリカ
「無理矢理ロッキー破り」 Play safe 1927 年
監督 ジョゼフ・ヘナベリー
出演 モンティ・バンクス、ヴァージニア・リー・コーピン
ハテ・エクスチェンジ社作品=アメリカ

【演技とタイミング】

「Maid in Morocco」 1926 年 (日本未公開)
監督 チャールズ・ラモント
出演 ルピノ・レイン、ヘレン・フォスター
エデュケーションナル社作品=アメリカ
「デブのコック」 The cook 1918 年
監督 ロスコー・アーバックル
出演 ロスコー・アーバックル、バスター・キートン
コニック・フィルム・コポレーション社/パラマウント
フェイマス・プレイヤーズ・ラスキー社作品=アメリカ
「The bakery」 1921 年 (日本未公開)
監督 ラリー・シモン、ノーマン・タウログ
出演 ラリー・シモン、オリバー・ハーディ
ヴァイタグラフ社作品=アメリカ
「チャップリンのスケート」 The rink 1916 年
監督・主演 チャーリー・チャップリン
ミューチュアル社作品=アメリカ
「ハイ・サイン」 The high sign 1920 年 (日本未公開)
監督 バスター・キートン、エディ・クライ
出演 バスター・キートン、バータイン・バーケット・ゼイン
コニック・フィルム・コポレーション/メトロ社作品=アメリカ

「You're darn tootin!」 1928 年 (日本未公開)

監督 レオ・マッケリー、撮影 ジョージ・スティーブンス
出演 スタン・ローレル、オリバー・ハーディ
ハル・ローチ・スタジオ/M.G.M.社作品=アメリカ
「デブ君の出稼ぎ」 The cook 1918 年
監督 ロスコー・アーバックル
出演 ロスコー・アーバックル、バスター・キートン
コニック・フィルム・コポレーション社/パラマウント
フェイマス・プレイヤーズ・ラスキー社作品=アメリカ

【喜劇とは?】

「カサブランカ」 Casablanca 1943 年
監督マイケル・カーティス
出演 ハンフリー・ボガート、英格リット・バーグマン
ワーナー・ブラザース作品=アメリカ

「黄金狂時代」 The gold rush 1925 年 (1952 年音楽版)
製作・監督・主演・作曲・ナレーション チャールズ・チャップリン共
演 ジョージア・ヘール
ユナイテッド・アーティスツ作品=アメリカ

「デブ君の給仕」 The bell boy 1918 年
監督 ロスコー・アーバックル
出演 ロスコー・アーバックル、バスター・キートン
コニック・フィルム・コポレーション社/パラマウント
フェイマス・プレイヤーズ・ラスキー社作品=アメリカ

【コメディの音楽性】

「新サイコ」 High anxiety 1977 年
製作・監督・脚本・主演 メル・ブルックス
共演: マデリン・カーン
20世紀フォックス作品=アメリカ

「サイレント・ムービー」 Silent movie 1976 年
製作・監督・脚本・主演 メル・ブルックス
共演 マーティ・フェルドマン
20世紀フォックス作品=アメリカ

【キャラクター性】

「続 家庭の事情 さいざんすの巻」 1954 年
監督 小田基義
出演 トニー・谷、三遊亭金馬
宝塚映画(東宝)作品=日本

「黒蜥蜴」 1968 年
監督 深作欣二、原作 江戸川乱歩、脚本 三島由紀夫、
音楽: 富田勲
出演 丸山明宏(美輪明宏)、木村功、松岡きっこ
松竹作品=日本

「LANVIN チョコレート」 TV コマーシャル (1970 年代)

【パロディの要素】

「ケンタッキー・フライド・ムービー」
The Kentucky fried movie 1977 年
製作 ロバート・K・ワイズ、監督 ジョン・ランディス、
脚本 テビッド・ズッカー、ジム・エイブラハムズ、
出演 コリン・メイル、ジョージ・レーゼンビー
ネッド・トップハム&ユナイテッド・フィルム・ディストリビューション・カンパニー作品=アメリカ

「裸の銃を持つ男33 1/3 最後の侮辱」
The naked gun33 1/3 The final insult 1994 年
製作 ロバート・K・ワイズ、監督 ピーター・セガール
出演 レスリー・ニールセン、ジョージ・ケネディ
テビッド・ズッカー・プロダクション/パラマウント=アメリカ

※当資料から無断転載を一切禁じます

必要な方は下記にご連絡下さいようお願い
申し上げます

〒145-0064
東京都大田区上池台 1-52-14
メゾン・ニューフィールド 101
喜劇映画研究会
TEL/FAX: 03-5499-3919
Mail: infor@kigeki-eikenn.com
HP: http://kigeki-eikenn.com/